

エゴマ栽培適性試験（6年目）

1. 目的

帯広市地域における「エゴマ富山早生種」の栽培適性を検証する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「富山早生種」、対照として「北海道産種」

(2) 面積および区制 : 総面積 200 m² (40m×5m (6畦))、
1区 100 m² (各区 3畦)

(3) 耕種等概要

| 土壌区分 | 土性 | 前作 | 栽植密度 | 栽培方法 | 播種月日 |
|------|----|-----|-----------|-----------|------|
| 沖積土 | 壤土 | 馬鈴薯 | 80cm×30cm | 露地直播・べた掛け | 5/21 |

※1株6粒播き1本立

| 土改資材 (kg/10a) | 施肥量(kg/10a) | | | | | | 病害虫 防除 |
|------------------|-------------|------------|-----|------|-----|-----|-----------|
| | 施肥時期 | 肥料名 | 窒素 | 燐酸 | 加里 | 苦土 | |
| 炭カル 60kg | 基肥 5/21 | 豆用 2号 80kg | 3.6 | 16.8 | 8.0 | 3.6 | 無 |

4. 試験結果

(1) 生育経過（季節及び作業内容）

| | | 富山早生種 | 北海道産種 |
|--------------|----|-----------|-----------|
| 播種 | 月日 | 5/21 | 5/21 |
| 播種粒数 | 粒 | 6 | 6 |
| べた掛け被覆 | 月日 | 5/21~6/11 | 5/21~6/11 |
| 出芽期 | 月日 | 5/30 | 5/30 |
| 補植（1回） | 月日 | 6/16 | 6/16 |
| 間引き（2回） | 月日 | 6/18、7/1 | 6/18、7/1 |
| かん水 | 月日 | 無 | 無 |
| 開花始め | 月日 | 8/27 | 9/2 |
| 成熟期（莢黄変 70%） | 月日 | 10/4 | 10/15 |
| 収穫 | 月日 | 10/4 | 10/15 |
| 脱穀・調整 | 月日 | 10/25 | 11/2 |

生育状況：

播種時～播種後の気温や土壌水分は適度で出芽は良好であった。雑草がやや繁茂気味のためべた掛け被覆は6月11日に除去し、除草を行った。欠株は少なかったが補植1回と間引き2回（最終間引き7月1日）を行い、1株1本立とした。

6月から7月にかけて高温・少雨が続き干ばつの影響が心配されたが、生育は順調であり、かん水は行わなかった。むしろ7月の猛暑後、8月の多降雨により、軟弱徒長・過繁茂状態となり、生育成長が旺盛であった。

花穂の出穂や開花はやや遅く、開花の数量も少ない傾向が見られた。富山早生種の開花始が8月27日、北海道産種の開花始が9月2日で例年より4日程度遅かった。

成熟期（莢黄変70%）は富山早生種が10月4日以降、北海道産種が10月15日以降と見られたが、野鳥（すずめ）の食害がひどかったため、収穫を早めに行った経緯がある。

7月28日の草丈は両品種とも70cm前後で富山早生種が北海道種よりやや高かったが、10月4日調査では両品種とも約180cmに徒長し、品種間差はほとんど見られなかった。倒伏は両品種とも中～多発生程度であった。

表 生育調査結果

| 調査日 | 項目 | 富山早生種 | 北海道産種 |
|------|--------|-------|-------|
| 7/28 | 草丈(cm) | 72.4 | 63.2 |
| | 節数(枚) | 10.0 | 10.1 |
| 10/4 | 草丈(cm) | 178.5 | 176.0 |
| | 節数(枚) | 15.6 | 15.6 |

(2) 収量調査

収穫は富山早生種を10月4日に、北海道産種を10月15日に手刈りをし、ガラス室で2～3週間乾燥させた後、それぞれ10月25日、11月2日に脱穀・唐箕掛けを行った。その後洗浄2回（洗濯機）と病害粒や屑粒、ゴミ等選別作業などの調整を行った。

10a当たり製品収量は富山早生種が45.2kg、北海道産種が50.8kgで、両品種とも低収であった。

表 収量調査結果

| 項目 | 富山早生種 | 北海道産種 |
|--------------|-------|-------|
| 製品収量(kg/10a) | 45.2 | 50.8 |

5. 考察

本年、出芽及び初期生育は非常に良好であった。その後、6～7月の著しい高温少雨の天候で生育はやや緩慢気味であったが、8月の多降雨により生育旺盛で軟弱徒長・過繁茂状態となった。そのため、花穂の出穂は遅れ、下位節の分枝が少なく、一株当りの有効花穂も少なかった。加えて、登熟が進んだ頃から野鳥（すすめ）の群来が頻繁となり、食害も大きかったと推察された。

本年の製品収量は両品種とも10a当たり50kg前後と低収であったが、その要因は前述の通り夏期の天候と野鳥の食害が大きかったと考えられる。

参考までに、本年、一部すじ蒔きの区（株間4～5cm）を設定したが、節数は一般試験区とほぼ同じ（15.0節）で、草丈が両品種とも210cm程度と徒長し、節間が長く、しかも100cm以下の下位節には分枝がほとんど着かない状態であった。

今後、多収安定生産を図る上で徒長・倒伏させない栽培方法の確立が必要と思われる。

○生育経過



播種 21.5.21



初期生育 21.6.16
左：北海道種 右：富山早生



間引き（2回目） 21.7.1



間引き後の生育 21.7.9



草丈の違い 21.7.26
左：北海道種 右：富山早生



左：北海道種 右：富山早生 21.8.5



食用性鱗翅目幼虫の食害が目立つ



奇形株が発生



花穂の出穂



花穂が少ない、花穂長が短い



疎植区（株間 30cm）分枝が多い
21.10.7



密植区（株間 4~5cm）下位節の分枝が無い
21.10.7



北海道種刈取 21.10.15



富山早生種ガラス室での乾燥 21.10.4